

## 第49週の発生動向 (2007/12/3~2007/12/9)

1. インフルエンザについては、弘前保健所管内において、新たに**警報**が出され、五所川原保健所管内においては、新たに**注意報**が出されています。今週から、インフルエンザ情報を掲載しています。
2. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内においては第45週から、むつ保健所管内において第48週から**警報**が続いています。
3. 感染性胃腸炎については、県内で急増していることから、引き続き、注意が必要です(先週290人 365人)。
4. 急性出血性結膜炎については、青森市保健所管内において、第47週から**警報**が続いています。

## 第49週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(100) インフルエンザ	27	1.93	539	35.93	45	3.21	92	13.14	24	2.67	11	1.83	738	11.35	475	2	1.00	25	2.08
(72) RSウイルス感染症	3	0.33	4	0.44			4	0.80	4	0.67			15	0.36	-1			3	0.38
(73) 咽頭結膜熱	31	3.44	8	0.89							11	2.75	50	1.19	-12			31	3.88
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	1.33	8	0.89	3	0.33	3	0.60	11	1.83	10	2.50	47	1.12	-4	1	1.00	11	1.38
(75) 感染性胃腸炎	73	8.11	41	4.56	83	9.22	28	5.60	65	10.83	75	18.75	365	8.69	75	7	7.00	66	8.25
(76) 水痘	4	0.44	2	0.22	6	0.67	13	2.60	7	1.17	11	2.75	43	1.02	-23			4	0.50
(77) 手足口病	1	0.11	13	1.44	1	0.11	8	1.60			3	0.75	26	0.62	5			1	0.13
(78) 伝染性紅斑					5	0.56			3	0.50	1	0.25	9	0.21	-2				
(79) 突発性発しん	2	0.22	7	0.78					7	1.17	4	1.00	20	0.48	3			2	0.25
(80) 百日咳															0				
(81) 風しん															-3				
(82) ヘルパンギーナ															-2				
(83) 麻疹(成人を除く)			2	0.22									2	0.05	-1				
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11	1	0.11	9	1.00	4	0.80	4	0.67			19	0.45	14			1	0.13
(86) 急性出血性結膜炎	2	1.00											2	0.18	0			2	1.00
(87) 流行性角結膜炎	5	2.50							1	0.50			6	0.55	-1			5	2.50
(95) マイコプラズマ肺炎					5	5.00							5	0.83	2				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

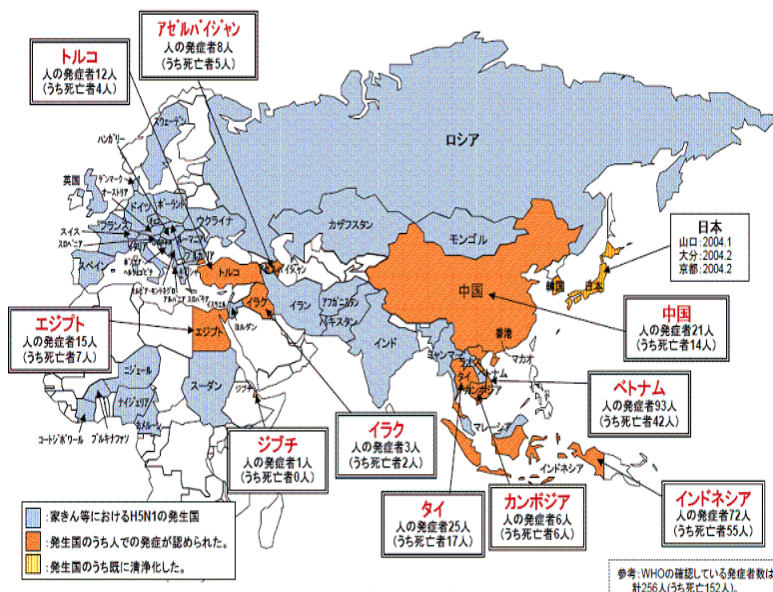
は警報
  は注意報
 「空欄」: 患者発生数 0

### 表 以外の感染症法対象疾患 (注:結核については4月1日からの累計で、届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前1人、八戸2人、五所川原1人、上十三1人、青森市2人 (19年計:176人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 青森市1人 (19年計: 38人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患): 弘前1人 (19年計: 11人)

## 感染症の窓

## 鳥インフルエンザ



**図** 高病原性鳥インフルエンザ A (H5N1) 発生国及び人での発生事例 2003-2006年 出典: 国立感染症研究所

鳥インフルエンザの病原体として、A型 influenza virus H5 及び H7 亜型が知られています。これらの亜型はまれに鳥からヒトへの感染を起こす場合があります、その症状は高熱、咳等、人のインフルエンザ様症状の他にも、重篤な肺炎や多臓器不全など重症化することもあります。最近、中国江蘇省において、H5N1に感染した20歳代の男性が12月2日に死亡し、父親も感染した疑いがあるという報道発表がありました(2007/12/10)。同国では、2003年から現在までに、H5N1に感染が確認された27例のうち17例が死亡しています(2007/12/10 厚生省)。図に示した流行地域へ出かける方は、生きている鳥を扱っている農場や市場などへ行かないことや弱った鳥や死んだ鳥に触れないこと、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用などの注意が必要です。